

小学部第1学年 国語科学習指導案

日 時：令和6年9月24日（火）2校時

場 所：小1教室

授業者：鈴木 夏美

1 単元名 ことばの たいそう～よく きいて、はなそう～（こくご一上 かざぐるま 光村図書）

2 児童と単元

（1）児童観

女児1名の個別学習である。コミュニケーション手段は手話である。準ずる教育課程で学んでいるが、WISC-IVの検査結果よりワーキングメモリーが低いことや文字で理解できる語句がまだ少ないことから、言葉の獲得に向けて実態に合わせた学習を行っている。聴覚活用が難しく、発声はあるが発音や音韻を意識して話すことができる言葉はまだ少なく、「おはよう」「ありがとう」などは口形を意識して話すよう求めている。手話ができる人とのやり取りを好み、自分の経験したことや好きなこと、気持ちなどを、獲得している手話表現を用いて3～5語文程度で伝えることができる。相手の話の大まかな内容を捉えられるようになってきたが、「どこ」「何」「どうして」などの疑問詞は、質問されていることを読み取れず返答がずれてしまうこともある。自分のことを伝えたい、話を聞いて欲しいという気持ちが大きく、話者をさえぎって話そうとしたり、急に別の話題を話し始めたりすることがある。合同学習の場面や休み時間には、教師を介して友達とやり取りし、友達の手話に注目して話を聞いたり、短いやり取りをしたりするようになってきた。また、興味・関心のあるものを取り入れながら学習経験を積むことで、一定時間学習に気持ちを向けたり、話者に注目して話を聞いたりするようになってきた。集中できる時間は短い、教師の励ましを受けながら学習に向かう姿勢を身に付けているところである。

国語の学習では季節や行事の言葉を学習したり、出来事を日記にまとめたりしてきた。平仮名と指文字は一致しているが、手話で表現できるものを指文字や文字で表すことが難しかったり、覚えるまで時間を要したりする。音韻や口形を手掛かりにしたり、文字への意識を高めたりできるよう、自立活動で発音練習にも取り組んでいる。経験したことや興味関心のあることであれば、物と手話、指文字、文字をつなげることで、少しずつではあるが読んで理解したり、書いたりできる言葉が増えてきている。

	平均聴力（右・左）	装用閾値（0.5・1・2kHz）
A子	CI・100dB	35dB・50dB・40dB

（2）単元観

本単元は、教師や友達の話聞いて、質問に答えたり、教師や友達に聞きたいことを考えたりする学習である。自分や相手の「好きな○○」についてやり取りすることで、自分のことを伝えるだけでなく、相手の話に注目したり、相手のことを知りたいという気持ちを高めたりすることができる。「好きな○○を教えてください」という定型の話し方で質問したり、それに答えたりすることを繰り返すことで、安心してコミュニケーションを重ねることができ、「話すこと・聞くこと」の領域に係る力を高めることにつながる。また、やり取りで出てきた事柄を文字で提示し、読んだり書いたりする活動を取り入れることで、「書くこと」「読むこと」に係る素地を高めることにもつながりたい。相手に聞きたい「好きな○○」を考える際には、「遊び」「食べ物」などの上位概念や下位概念、気持ちの表現、動詞などにも触れることで、言葉の広がりにもつながると考える。また、他者とのやり取りを楽しみながら、聞く力や話す力、書記日本語の素地となる力を高めることができると考え、本単元を設定した。

（3）指導観

児童の実態を踏まえ、指導に当たっては次の点に配慮する。

- 相手の話に関心をもったり、注目して聞いたりできるよう、担任と定型の話し方でのやり取りを重ねる。その上で、担任以外の教師や友達とのやり取りの場面を設ける。やり取りする際は、相手からの質問や話の内容を必要に応じて繰り返し確認できるよう、事前に録画したものを使用する。学習の中で考えた質問は、休み時間に聞きに行き実際にやり取りする機会を設ける。
- 「何と言っていましたか」などと質問内容について問い掛けることで、相手の話への注目を促したり、内容を理解しているか確認したりする。
- 書記日本語や文の形での表現に触れることができるよう、やり取りの内容を板書で示したり、学習シートにまとめる時間を設けたりする。
- 相手に聞きたい「好きな○○」を考えることができるよう、「遊び」「食べ物」などの上位概念や「例えば鬼ごっこ」「例えばからあげ」などの下位概念について話題に取り上げ、語彙を拡充する時間を設ける。
- イラストと手話、指文字、文字を組み合わせで提示したり、音韻数を指で示したりし、視覚的に捉えながら文字を覚えられるようにする。
- 相手の質問に対する答えや相手への質問の内容など、本児が話した内容を受け止めつつ、教師が整理して文の形で示し、拡充模倣を求める。

3 単元の目標と指導計画

(1) 単元の目標

- 【知】：「知識及び技能」【思】：「思考力、判断力、表現力」【学】：「学びに向かう力、人間性等」
- ・話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように最後まで集中して話を聞く。【学】
 - ・相手の話の内容に関心を持ち、内容を捉え、話題に合った返答や質問を考える。【知】【思】【学】
 - ・手話と文字を結び付け、「好きな○○」に関連する文字をまとまりで捉えたり、覚えて書いたりできる言葉を増やす。【知】

(2) 指導計画（5時間扱い）

【知】：「知識・技能」【思】：「思考力・判断力・表現力」【学】：「主体的に学びに取り組む態度」

時数	学習活動	指導上の留意点	評価規準 観点〈方法〉
1	定型の話し方ややり取りの仕方を知る。	・教科書でのやり取りの流れを手話と文字を対応させながら確認する。「Aさんなら何て言う？」などと問い掛け、自分がやり取りするイメージがもてるようにする。 ・「すき」「なに」などの言葉が文字でも捉えられるよう、文字カードと手話とを対応させながら確認する時間を設ける。 ・学習への意欲がもてるよう、本単元の最後に「好きな○○」を聞きたい人を自分で決めてやり取りすることを伝える。	・教科書でのやり取りの流れが分かり、手話で表現したり、自分ならどう答えるかを考えたりしている。【知】【思】〈行動、発言〉 ・キーワードとなる「すき」「なに」などの言葉を文字で覚えようとしている。【知】【学】〈行動、発言〉
2／3 【本時】	教師や友達の「好きな○○」についてVTRをもとにやり取りの内容を考える。	・話の内容をしっかりと捉えて答えられるよう、「どんな質問かな？」などの言葉掛けをし、注目を促す。また、相手の話にどう返していいか困っているときは、いくつか選択肢を提示する。 ・板書やワークシートを用い、話の内容を文字と手話を対応させて覚えられるようにする。また、「○○」を考える際は、自立活動の学習で作成した「ことばぶっく」を参考にするよう伝える。	・相手の話に注目し、どんなことを聞かれているかを捉え、返答を考えようとしている。【思】【学】〈行動、発言〉 ・「食べ物」「動物」などのカテゴリーに気付き、質問したいことを考えている。【知】【思】〈行動、発言〉 ・文字で表された言葉をまとまりで捉え、手話で表現したり、覚えて書いたりしている。【知】〈行動、ワークシート〉
1	「好きな○○」を聞きたい人を決めてやり取りする。	・質問をしたい人を本児が選ぶことで、相手をより意識して話を聞いたり、質問したりできるようにする。	・前時までの経験を生かして、自分なりに考えながら相手とやり取りしようとしている。【知】【思】【学】〈行動、発言〉

4 本時の実際(本時3/5)

(1) 本時の目標

- ・話を最後まで集中して聞き、話の内容に合わせて返答を考える。**知 思 学**
- ・「好きな○○」に当てはまる事物を考えたりする。**知 思**
- ・やり取りで用いる言葉を手話と指文字、文字とを対応させながら覚えようとする。**知**

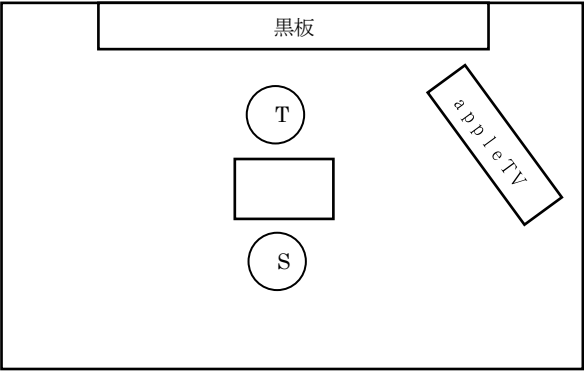
(2) 展開

時間	過程	学習活動 学習のめあて ◇期待する児童の姿・予想される児童の姿	○教師の働き掛け ●主な発問 評価規準〈方法〉 ・聴覚障害の状態等に応じた配慮事項等
5分	つかむ	1 本時の学習内容とめあてを知る。 しつもん に こたえよう。 しつもん を かんがえよう。	○前時までの学習内容を振り返ったり、文字カードの確認をしたりする。本時の学習内容に期待感をもてるよう「今日は誰かな」などと言葉掛けをする。
38分	かんがえる	2 「好きな○○」についてやり取りする。 ①VTRを見て、相手の話を聞く。 ◇相手の話を読み取り、「なに」「どうして」などの問い掛けに答える。 ・聞き漏らしたことは「もう一度見たいです」と教師に依頼する。 ②「好きな○○」について返答を考える。 ◇「なに」「どんな」「どうして」のキーワードを基に、返答の内容を考える。 ・教師が挙げた選択肢から、「どんな」「どうして」の内容を考え、返答をまとめる。 ③ワークシートにまとめる。 3 質問する「好きな○○」を考える。 ◇今までのやり取りを参考に相手に聞きたい「好きな○○」を決めたり、自分の話す内容を考えたりする。 ・「ことばぶっく」を見たり、教師が挙げた例を聞いたりして、「好きな○○」や話の内容を考える。	・相手の話に注目できるよう、VTRを見る前に「どんなお話をするかな」「どんな質問かな」などの言葉掛けをする。 ・話の内容を捉えられたか確認するために「何と言っていましたか」と問い掛ける。「なに」「どんな」「どうして」など、聞き取った内容をキーワードごとに確認し、板書する。 ●好きな○○を答えましょう。 ○本児が「好きな○○」を答えることが難しい様子が見られたときは、「ことばぶっく」を見るよう促し、「どれが好きなかな？」などと投げ掛ける。 ・「好きな○○」について、どんなところが好きか、どうして好きかななどを問い掛ける。本児が話した内容を「なに」「どんな」「どうして」のキーワードに合わせて板書する。 ・「好きな○○」について「どんな」「どうして」などを含めて話ができるよう、板書を参考にするよう伝えたり、教師が文の形で提示し復唱を求めたりする。 ・話の内容を文字化し、手話と結び付けながら確認する。ワークシートにまとめるときは、語の一部を隠したり、音韻数を示したりし、覚えて書くよう求める。また、書き終わったら書いた内容を手話で読む時間を設ける。 話の内容や質問されていることを捉え、返答を考えている。＜発言＞ 文字のまとまりや音韻数を意識しながらものの名前などを覚えて書こうとしている。＜行動、ワークシート＞ ○休み時間に今度は自分から相手に「好きな○○」を質問することを伝え、やり取りに期待感をもてるようにする。 ●好きな「何」を聞きたいですか。 ・「好きな○○」が思いつかないときは、「ことばぶっく」のカテゴリーを参考にするよう伝える。 ・言葉の広がりにつながるよう、本児が決めた「好きな○○」について、「何て答えると思う？」「例えばどんなものがある？」などと問い掛ける。 相手に質問したいことや「好きな○○」について、キーワードや教師の例、ことばぶっくを参考に考えている。＜発言＞
2分	ふりかえる	4 本時を振り返る。	・本時で扱った語句を指文字で表すよう促し、文字の定着を確認する。文字を覚えることの意欲につながるよう、指文字で表現できたときは大いに称賛する。 ○本時を振り返ることができるよう、話をよく聞いて質問に答えたかどうか、選択肢を提示し尋ねる。

(3) 教師の評価

- ・「好きな○○」についてのやり取りを経験したり、文字で読み書きできる語を増やしたりするための学習活動の設定、手立ては適切であったか。

5 教室配置図等



〈板書計画〉

